

<共通論題>

「大規模災害と経済」

座長：小野有人（中央大学）

副座長：鎮目雅人（早稲田大学）

共通論題趣旨

2011年3月11日の東日本大震災からまもなく10年が経つ。度重なる地震、頻発する水害、そして現下のCOVID-19などの疫病といった大規模な自然災害は、家計、企業、金融機関、そして地域の経済活動に様々な影響を及ぼすが、その波及経路や程度は、自然災害の種類（タイプ）やマクロ的な経済環境、各経済主体による被災前のリスクへの備え等によって異なると考えられる。また、大規模災害の影響は、短期と中長期という時間軸によって異なる可能性もある。本共通論題では、大規模災害が経済に及ぼす影響について、これまでの理論的・実証的な経済分析の蓄積を踏まえて議論を深めたい。

報告者として、大規模災害に関する経済分析を行っている研究者3名をお招きした。大規模災害が経済に及ぼす影響が多面的であることを踏まえて、各報告者の専門分野である空間経済学・国際経済学（大久保氏）、企業金融・企業動学（細野氏）、リスクマネジメント・保険（柳瀬氏）の観点から、ご自身の研究成果を含む研究動向をご報告頂く。また、討論者（中尾氏）からは、報告者の議論を踏まえて、大規模災害の政策実務の現状や、防災・復興のあり方を考えるうえで研究者に期待する研究テーマなどについてコメント頂く。

大規模災害と経済に関するこれまでの「エビデンス」を踏まえ、今後発生する大規模災害にどのように備え、対処するのか、そして我々研究者が大規模災害に関する知見をどのように提供できるかを考える機会としたい。